

13 豊かで利便性に優れた暮らしづくり推進プロジェクト

概要

地域社会のデジタル化を進めるとともに、生活交通の維持・活性化や、利便性・安全性の高い道路網の整備等を通じて、豊かで利便性に優れた暮らしを実現

重点施策

44 豊かさと幸せを実感できるデジタル社会の実現

45 快適で住みやすい生活環境づくりの推進

(1) 成果指標の状況

	進捗状況	指標数	主な指標
成果指標	★★★★★(目標を達成)	1	緩和する主要渋滞箇所数
	★★★★(計画を上回る)	5	Y-BASE における課題解決件数、光ファイバの世帯カバー率 等
	★★★(ほぼ計画どおり)	2	光ファイバの世帯カバー率
	★★(計画を下回る)		
	★(計画から大幅に遅れ)	1	オンライン利用率(県関係手続)

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらでもない	そう思わない
県民実感度調査(%)	暮らしを支える生活道路の整備や都市公園の利活用など、快適な生活環境づくりの取組が進んでいると思いますか。	33.2	37.2	28.5
	行政手続のオンライン化など、デジタルによって社会や暮らしを便利にするための取組が進んでいると思いますか。	30.9	43.9	23.5
県民実感度調査(%) (山口県のみちづくり)	あなたは自分が日頃利用する道路について満足していますか。	58.9	22.8	18.3

(3) 主な取組と成果

◆豊かさと幸せを実感できるデジタル社会の実現

- **やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」**で、AIを活用した自動議事録作成システムやWeb予約システムの実装等の支援を実施し、148件の課題を解決した。また、AIの利活用による業務変革や新事業創出の推進に向け、生成AIアカウント貸出による実証環境の提供やコンサルティングによるハンズオン支援など、**Y-BASEにおいて生成AIの利活用支援を強化**。
- 官民連携の**デジタルコミュニティ「デジテック for YAMAGUCHI」**における共創活動を通じた課題解決の取組を促進。
(事例) 獣害マッププロジェクト、防府コミュニティフリッジプロジェクト 等
- AIやデザイン思考など**DX創出に必要な技術・スキルを習得する実践的研修**を実施し、行政・企業等の内部でDXを推進することができる人材の育成・確保を推進(デジタル技術を活用できるリーダー人材の育成人数144人)。
- 「**山口県デジタル実装推進基金**」を活用して、中山間地域における医療体制の確保や高齢者の生活支援、産業分野の生産性向上など、県民の生活実感の向上等に繋がる**デジタル実装の取組を集中的に実施**。
- 先進的なデジタル技術の活用による**利便性の高い魅力ある地域づくり**を目指して、自動運転EVバスの社会実装に向けた実証運行を実施。
- 「**やまぐち情報スーパーネットワーク(YSN)**」について、教育DXや自治体DX等に対応するための機能強化等を実施するとともに、**県立学校のネットワークの高速化を進め、中・大規模校のSINET接続**を実現。

- 総合交通センター等に出向かずに、スマートフォン等で更新時講習の受講ができる「**優良運転者オンライン講習モデル事業**」を実施（令和7年2月28日でモデル事業は終了し3月24日から全国運用開始）
対象者のうち優良運転者では約39%にあたる66,636人、一般運転者では約44%にあたる21,318人が利用（R6）
- 「**出張型運転免許手続**」を山口市阿東地域において月1回実施
免許更新手続きや安全運転相談など延べ164人が利用（R6年度）
- 「**マイナンバーカードと運転免許証の一体化**」をはじめ、全国共通システムの整備や自動申請受付機の導入など、**運転免許手続きのデジタル化**を推進
- ◆ **快適で住みやすい生活環境づくりの推進**
 - 暮らしやすいまちづくりを支援する道路環境の整備
 - ・各都市間の広域的な交流・連携に資する道路や、日常生活の利便性・安全性の向上に資する道路等の整備を着実に推進
国道・県道の整備完了延長：25km（R4～R6年度）→目標：50km（R4～R8年度）
 - ・通学路等の生活空間における歩道整備や交差点の改良などの交通安全対策を着実に推進
通学路合同点検に基づく交通安全対策完了率94%（R6年度）→目標：100%（R4～R8年度）
 - 交通空白地における持続的な移動手段の確保に向けて、**AIデマンド交通など、デジタル技術を活用した新たなモビリティサービスの導入**を目指す9市を支援。
 - 公共交通の利便性向上を図るため、路線バスへの**交通系ICカードの導入**を促進。
県内路線バス車両の約9割で導入済（令和6年度末）
 - **県内ローカル線の活性化**や鉄道利用の機運醸成に向け、市町、JR西日本、国及び県の関係者による連絡会議を開催し、ローカル線の現状や利用促進に向けた取組の状況など様々な情報共有や意見交換等を実施
 - 安全な道路交通環境を確保する交通安全施設の整備促進
LED式信号機の整備率86.3%（R5年度）→89.9%（R6年度）

(4) 総評

総
評

- Y-BASEを核としたDXの推進やDX推進に必要なリーダー的人材の育成などを通じて、様々な主体のデジタルを活用した課題解決の取組が進むとともに、「山口県デジタル実装推進基金」を活用したデジタル実装に向けた取組が着実に推進されているが、社会や暮らしが変わったと県民が真に実感できるよう、取組のさらなる促進が求められている。

(5) 課題と今後の展開方向

課
題
と
今
後
の
展
開
方
向

- ◆ **豊かさと幸せを実感できるデジタル社会の実現**
 - 多くの県民の皆様が、デジタルによって社会や暮らしが変わったと真に実感できるよう、「山口県デジタル実装推進基金」を活用したデジタル実装の取組のさらなる推進を図るとともに、自動運転技術など先進技術の導入やデジタルによる中山間地域等の暮らしの充実など、人口減少に伴う地域の社会課題の解決に向けて、実装ハードルの高い取組にも積極的に挑戦し、その取組モデルを県内に普及していく必要がある。
 - 県民ニーズの高い「運転免許証即日交付施設の拡充」に向けて、施設の改修や機器類の整備、免許窓口の合理化などを計画的に進めるほか、県民の利便性を損なうことがないよう中山間地域等で実施している「出張型運転免許手続」の柔軟な運用が必要である。
- ◆ **快適で住みやすい生活環境づくりの推進**
 - 道路に対する満足度については、県民実感度調査において一定の評価を得ているが、依然として、国道・県道等におけるすれ違いが困難な狭い道路の拡幅や渋滞対策、自転車の通行環

境の整備などを求める意見が多いことから、引き続き、快適な生活環境の充実を図るため、利便性・安全性の高い道路網を整備する必要がある。

- 歩行者や自転車利用者等を交通事故から守る対策の促進や、バリアフリー化が必要である。
- 交通空白地における持続可能な移動手段の確保に向け、A I デマンド交通等、デジタル技術を活用した新たなモビリティサービスの導入を加速化することが必要である。
- また、沿線住民の日常生活や地域の経済活動、観光振興などに重要な役割を担っている地方ローカル線の維持・確保に向け、沿線市町等と一層の連携の下、利用促進など路線の活性化に向けた取組が必要である。
- 信号柱の更新スピードを加速するとともに、省エネルギー効果が高いL E D式信号機の整備を促進する必要がある。

(参考) 令和7年度の主な新規・拡充取組

新 生成A I 利活用支援強化事業

高度専門人材による生成A I 活用支援や、スタートアップ企業等と連携した先端事例創出を通じて、企業等の業務変革を推進

新 バス・タクシー運転士採用強化事業

深刻化するバス・タクシー運転士不足に対応するため、短時間勤務職員の第二種免許取得経費を負担する事業者に対する支援等、運転士の採用を強化する取組を通じ、地域交通の維持・確保を図る。